

## 岐阜県史跡 金山城跡第3次発掘調査の結果について

◎調査期間 平成20年10月15日（水）～12月15日（月）

◎調査目的 二の丸全体で礎石探しを中心とした建物跡の確認、南側石垣の検出、三の丸北曲輪内の建物跡の確認などを実施。

◎調査面積 調査範囲の面積約3,000㎡ 内掘削調査した面積約200㎡

### ◎調査の成果

#### 1. 検出された遺構

##### ①二の丸（にのまる）

- ・ 地表に露出した川原石の位置を元に、発掘により32ヶ所で礎石と思われる石を確認しました。
- ・ 最も北側の部分は二の丸の入り口にあたり、その部分にあったと想定される門の礎石となる石列が確認できました。
- ・ 中央部分では、約1.9m間隔の石列があり、3間×3間以上の建物があったと想定されます。さらに南側の部分でも直線的に並んだ川原石が確認され、中央部分の石列とともに御殿のような大規模な建物があった可能性が考えられます。
- ・ 二の丸南側の斜面で約35mに渡る石垣が検出しました。2～3段に積み上げられた石垣は高さ1.0～1.5mで、その中央部分はさらに南側に張り出し、「物見櫓」<sup>ものみやぐら</sup>があったとされる場所との関連が推測されます。



二の丸礎石出土状況（西より）

川原石の礎石の出土状態です。曲輪の入口部分にあたり、門があったと思われます。



二の丸中央付近礎石（南より）  
これら多くの礎石からこの場所には御殿風の建物があったのではないかと思います。



物見櫓と想定される場所  
（南より）  
南側に石組があり、平坦な面には礎石がみられます。



礎石と黄瀬戸鉢出土（南より）  
ほぼ割れていない黄瀬戸の鉢が礎石の上から出土しました。



二の丸南側石垣（東より）  
二の丸南側には2～3段の  
石垣が巡ります。



二の丸南側石垣（西より）  
このような張り出し部分が  
2ヶ所みられます。



二の丸西側石垣（西より）  
金山城跡の中でも良い状態で  
残っている石垣です。斜面に  
そって築かれています。

## ②三の丸北曲輪（さんのまるきたくるわ）

- 南側にある曲輪入り口付近で、礎石と思われる川原石や角礫を検出しましたが、建物跡のような配列は確認できませんでした。
- 曲輪の北側にあった3ヶ所のバンガロー跡（戦後に建てられたキャンプ場の跡）については、そのほとんどが表土上に置かれた新しい時代のものであるとわかりました。最も北側にあったバンガロー跡では、南側に位置する石列の両端にあった2つの川原石だけが整地面（曲輪を作ったときに平らにした地面）の中に埋め込まれており、礎石として用いられた可能性が高いと考えます。
- 「三の丸」中央やや北よりの部分から、石の囲いとそれに伴う掘り込みと思われる遺構が検出されました。全体を掘り出してみましたが、何のために造られたものであるかは判明できませんでした。その周辺と埋土の中から瓦片がまとまって出土し、今回の調査で最も多くの瓦片が出た場所です。



三の丸北曲輪礎石出土状況  
（北より）

礎石がまばらに出ています。バンガロー等に使用された礎石もあり、建物の配列や規則性はみられませんでした。



石の囲いとそれに伴う掘りこみ遺構（西より）

瓦片がまとまって出土した場所です。何に使用されたかはまだ不明です。



三の丸北曲輪東側石垣（北より）  
斜面の中腹に築かれています。

## 2. 出土した遺物

- 二の丸、三の丸北曲輪ではかわらけ片（素焼きの皿）や陶器の破片等が多く出土しました。その他には両調査区から古銭が計4点出土しました。
- 瓦片は、二の丸ではほぼ出土しませんでした。三の丸北曲輪で調査範囲の表土中及び中央部北よりの石垣の遺構の内部とその周辺からまとまって出土しました。出土した瓦は曲輪内で使用されたものか、より上層の曲輪（西腰曲輪）や本丸で使用されたものが廃棄された可能性が考えられます。その他に鬼瓦の一部と思われる破片が石垣の遺構東側から出土しました。



第3次調査出土遺物一部